

# BY BLUE

2006  
VOL

19

琵琶湖・淀川の未来を見つめる情報誌 バイブルー

新連載がスタートしました!!

●水の逸話を訪ねて……P1

「くわんか舟」大阪府枚方市

●食材を活かす水の妙……P2

「京豆腐と京都の地下水」

●水とともに……P5

「かばた」針江生水の郷

●おもしろ科学実験水のふしぎ……P10

「マーブリングに挑戦！」

特集  
いくつ知ってる？

琵琶湖固有の魚たち

つくってみよう!

うらのページに、  
この折り紙の  
折り方がのってるよ!



十石舟や三十石舟は、現在も遊覧船として京都・伏見で運航されています。心地よい風に吹かれながら、酒蔵や古い町並みを眺めていると、江戸時代にタイムスリップしたかのような気分になります。(写真は十石舟のもの)

くらわんか舟(大阪府枚方市)

飯くらわんかい。酒のまんかい。  
さあさあ皆起きくされ、よく寝るやつらじゃ—

江戸時代後期、十返舎一九によって書かれた「東海道中膝栗毛」にも

描かれている「くらわんか舟」。

江戸時代の淀川、京・伏見と

大坂・八軒家の間を行き来して、

旅人を運んでいた三十石舟に

食べ物や飲み物を商っていたのが

「くらわんか舟」といわれた小舟です。

「くらわんか」とは、この地方の方言で

「食べませんか」という意味で、

三十石舟に近づき「くらわんか」と声を掛け

販売していたことからこう呼ばれました。

くらわんか舟では

料金を器の数で計算していたため、

支払いを「ごまかす」ために

器を川に捨てた客もいたようで、

今でも淀川の川底から当時の器が

発見されることがあります。

これらは「くらわんか茶碗」と呼ばれ、

骨董屋などで時折目にすることもありますが、

荒削りで素朴な風合いの茶碗からは、

当時の商人や旅人たちの威勢のいい

やり取りが伝わってくるようです。



①④



②③



# 食材を活かす 水の妙

## 京豆腐と

## 京都の地下水

### 大豆の風味を引き出す 恵みの軟水が味の決め手。

性からややアルカリ性の水が適しており、カルシウムとマグネシウムの含有量が少ない軟水がよいとされています。

軟水には食物固有の風味を引き出す力があり、大豆の風味を生かした豆腐は軟水でこそ作れるものなのです。

### 水に恵まれた 京都の豆腐づくり

近年の調査で、京都盆地の地下は琵琶湖の8割ほどの地下水をたたえる天然の地下ダムになっていることが明らかになってきました。この地下水はカルキなどの不純物がない軟水で、水温も季節を問わず16〜17度と安定していることが特徴。しかも「京都三名水」をはじめ、「都七名水」「西陣五水」など、名水として今でもコンスタントに湧き出しています。

つまり、一年を通して地下水の水質、水温そして水量が安定している京都は、「豆腐づくりに最適な土地」なのです。

材料がシンプルだからこそ、その良し悪しが味に直結する——こんこんと湧き出る良質の地下水が伝統の味を支えていると言っても過言ではないでしょう。

### 水の良し悪しが 豆腐の味を左右する

豆腐の原料といえば大豆、にがり、そして水。

特に成分の7〜8割が水といわれる豆腐にとって、水は大豆と並んで豆腐の味を左右するといわれるほど重要なものです。

豆腐づくりは大豆を水に浸すことから始まり、にがりを含ませる時、型箱に入れた豆腐をさらす時：最初から最後まで大量の水が使われます。その水質は中

夜明け前から作業が始まる豆腐づくり。①すり潰され、高温の釜で蒸された大豆は豆乳とおからに分けられる②大豆100%の豆乳はにがりと混ぜ合わされ成型される③冷やされて固まった豆腐が切り分けられる④できあがった豆腐は地下水の「プール」で冷やされる【撮影協力=京都市下京区「久保田豆腐店」】

# 琵琶湖固有の魚たち

琵琶湖・淀川水系は日本の淡水魚の宝庫と言われており、魚類だけでなく水鳥や昆虫、水生植物等の様々な生物が生息しています。特に琵琶湖は世界的にも非常に長い歴史を持った古い湖で、一千種を超える動植物が生息しています。そのうち琵琶湖に生息する固有種が六十三種（亜種、変種を含む）、うち魚類では十五種類が生息しています。

### 琵琶湖の固有種

琵琶湖とその流入河川には、約60種の魚類が生息しています。そのうち15種が、琵琶湖の「固有種」（元々ある地域にしか生息・繁殖していなかった生き物）といわれています。日本全国でも、これだけたくさんの種類の淡水魚が生息し、しかも固有種がこんなにも多いのは琵琶湖だけです。

#### 固有種はおいしー！

琵琶湖の魚類の中でも特に固有種が多いのがコイ科で、15種のうち約半分の7種を占めています。コイ科の固有種の中でもワタカは一風変わったいて、ワタカの近縁種は日本に全くいません。日本にいたワタカの先祖が、琵琶湖だけで生き残ったということようです。また、日本にはナマズの仲間が3種類いますが、そのうちビワコオオナ



写真提供：滋賀県立琵琶湖博物館

文化になっっているのです。

### 固有種の大ピンチ！

周辺の家庭の食卓によく上っています。美味であり、塩焼きや照り焼きとして食されます。この魚は特に明治天皇がことのほか好んだことから「鯉」の字が当てられたそう。イワトコナマズは岩礁帯に生息するため臭みがなく、日本産のナマズ類の中で最もおいしいといわれています。ただし、この魚は捕れる量が少ないため、主に琵琶湖北部や岐阜などでしか消費されていないとか。ビワマスは、6月～7月に赤身に脂がのり、刺身、塩焼き、照り焼きなどで非常においしく食べられるそうです。

滋賀県に生息する貴重な野生動物についてまとめた「滋賀県レッドデータブック2005年版」では、琵琶湖の固有種の中でもワタカ、アブラヒガイ、スジシマドジョウ小型琵琶湖型、スジシマドジョウ大型種の4種が「絶滅危惧種」に指定されました。また、「絶滅危惧増大種」にはホンモロコ、イワトコナマズ、イサザの3種が、「希少種」にはニゴロブナ、ビワヒガイ、ゲンゴロウブナ、ビワコオオナマズの4種がそれぞれ指定されました。

このように、琵琶湖の固有種は、琵琶湖の周りに住む人たちにおいて食われています。それだけでなく、耐ずしに代表されるように、固有種と人々とのつながり自体が

科名	種名
サケ科	ビワマス
コイ科	ワタカ★ ホンモロコ▲ ビワヒガイ◆
	アブラヒガイ★ スゴモロコ ニゴロブナ◆ ゲンゴロウブナ◆
ドジョウ科	スジシマドジョウ小型種琵琶湖型★
	スジシマドジョウ大型種★
ナマズ科	ビワコオオナマズ◆ イワトコナマズ▲
ハゼ科	イサザ▲ ビワヨシノボリ
カジカ科	ウツセミカジカ

★絶滅危惧種 ▲絶滅危機増大種 ◆希少種

その成果が報告され始めています。それによると、フナ類が減っている主な原因としては、水位の変動、産卵・生育場の減少、外来魚の増加などが挙げられるようです。

フナ類は、琵琶湖岸のヨシ帯などを産卵場・仔稚魚の成育場に利用します。雨が多い梅雨・秋は、洪水対策のために琵琶湖の水位を下げますが、このようなフナ類の繁殖期に琵琶湖の水位が低下すると産卵場が干上がり、産卵できる場所が減少してしまいます。

また、フナ類は、琵琶湖湖岸のヨシ帯だけでなく、周辺の内湖、河川、水路および水田なども産卵場・仔稚魚の成育場として利用しています。しかし、近年の湖岸堤整備によるヨシ帯の減少、干拓による内湖（湿地）の減少、河川整備による川や水路のコンクリート化、圃場整備<sup>※4</sup>による田んぼのかさ上げなどは、フナ類の産卵・生育場を減少させてしまいました。

少なくなった産卵場に辛うじて生み付けられた卵や、どうにか孵化してきた仔稚魚も、琵琶湖に侵入して爆発的に増えたブルーギルやオオクチバスなどの外来魚に食べられてしまいます。特に、外来魚の多い南湖では、比較的外来魚の

少ない北湖よりも被害が大きいと考えられます。

### 固有種を守るために

琵琶湖の固有種の代表格であるニゴロブナやゲンゴロウブナを含むフナ類の減少の原因が徐々に明らかになってきたことを受けて、これらを保全・回復させるための事業が、国、地方自治体、市民団体および地域住民などが連携した形で進みつつあります。

例えば、フナ類の中でも水産的な価値の高いニゴロブナが、産卵場・仔稚魚の成育場として利用しやすいように、湖岸のヨシ帯や



(上) 水田の中を泳ぐ稚魚 (下) 排水路堰上げ式水田魚道を遡上するナマズ

写真提供：滋賀県農林振興課

周辺の休耕田、水田につながる水路や魚道を整備する事業が行われています。また、稲を育てている水田にニゴロブナの仔稚魚を放流し、成長させてから琵琶湖に放流する事業なども行われています。水田には外来魚がいないので、たくさんの仔稚魚がすくすくと成長させることができるようです。

このように固有種を増やす事業の成功を願うとともに、今後は、より多くの固有種が自然に生きていくことで、「琵琶湖らしさ」を守っていきたいものです。その上おいしい固有種がいつまでも食べられれば、うれしい限りではないでしょうか。



事業で使用されている池の観察会。収集したデータは環境保全、再生へ向けての資料となります。

**\*1 絶滅危惧種**  
(ぜつめつきちゆ)  
滋賀県内において絶滅の危機に瀕している種。もしも現在の状態をもたらした圧迫要因が引き続き作用するならば、その存続が困難なもの。

**\*2 絶滅危機増大種**  
(ぜつめつきちゆうぞうたいしゆ)  
滋賀県内において絶滅の危機が増大している種。もしも現在の状態をもたらした圧迫要因が引き続き作用するならば、近い将来絶滅危惧種のカテゴリーに移行することが確実と考えられるもの。

**\*3 希少種**  
(きしょうしゆ)  
滋賀県内において存続基盤が脆弱(ぜいじやく)な種。現在のところ絶滅危惧種にも絶滅危機増大種にも該当しないが、生息生育条件の変化によって容易にこれらのカテゴリーに移行するような脆弱性を有するもの。

**\*4 圃場整備**  
(ほじょうせいび)  
より効率的に生産性の高い田んぼにするため、用水路・排水路の整備や田んぼのかさ上げを行うこと。

# 思いやりと信頼が支える 2000年の伝統文化。

大小いくつもの川や水路が網の目のように巡り、  
地下15〜25メートルからは良質な水が湧く針江地区。  
この地区には「かばた」とよばれる、  
水と密接に関わる生活習慣があります。



かばたとは屋内や家の敷地内に設置された湧き水の井戸のこと。針江地区では100軒ほどの家庭がかばたを設置しており、屋内に設置されたものを「内かばた」、屋外に設置されたものを「外かばた」と呼びます。

かばたは「生水」と呼ばれる湧き水を汲み上げる「元池」、野菜を冷やしたり、顔を洗うための「壺池」、壺池から流れ出た水が、道沿いの水路と合流する「端池」の三つから成り、端池では鯉や鮒が飼われています。これらの魚が調理で使った鍋の食べ残しや、水路の汚れなどを食べてくれることで水を浄化して水路に排出します。

かばたの地下水の水温は年間を通して12〜13度と一定で、水質も安定しているため、水を利用して醤油や味噌を漬けている家や、近づくだけでひんやりするほど

のかばた特有の冷気を食物倉庫の床下に送り込んで、食品の保存に利用している家など、生活の中で工夫して利用されています。

## 梅花藻、ハリヨが清らかさの証

上流のかばたから排出された水は下流の家のかばたに流れ込み、水路を伝って針江大川へ、そして最終的には琵琶湖に流れ出します。

地域の暗黙のルールは「水を汚さないこと」。かばたでは洗剤などは一切使いません。「上流の人は思いやりを、下流の人は信頼を」——地区の合言葉にもなっているこの関係が、弥生時代から約2000年続くかばた文化を、ひいては琵琶湖の水質を支える原点となっているのです。

針江大川には梅花藻が茂り、ハリヨやオハグロトンボなどの姿

を見ることもできます。これらの動植物は水がきれいな所にしか生息しないといわれていることから、針江地区の水がいかに清らかなかがうかがえます。

## 年間3000人の見学者 “かばたへの関心は全国へ”

2004年にかばたがテレビで紹介されて以降、2005年には約3000人もの見学者が全国から針江地区を訪れるほどに急増しました。

それに伴い、見学者の対応をするために地元有志による「針江生水の郷委員会」が発足。毎月2回、ボランティアガイドによる見学ツアーを開催しています。

「針江を観光地にしようと思っ



端池で泳ぐ鯉。茶碗についたご飯粒などを食べて水を浄化してくれる。かつては冬場のたん白源として飼われていたが、現在、食用にされることはない



包丁や鍋といった調理道具、歯ブラシなどの生活用品が並ぶ。かばたが生活に密着していることが感じられる

て始めたわけではありません。この活動を通して、見学に来られる方、地元の人みんなが水に関心を持つきっかけになればと思っています。針江の人にとってかばたは生活の一部。空気と同じで、特別なものではないのです。見学を通して、かばたや琵琶湖を汚さないように住民一人ひとりが水を大切に使用していることを感じてほしいと思います」とは同会発足当初からのメンバー、美濃部武彦さん。

発足当初24人だったボランティアスタッフが現在では50人以上に増え、針江大川の定期清掃には岐阜や九州などから参加者が集まるなど、地元住民のみならず全国的にもかばたへの関心が高まってきています。



①猪名川上流、多田神社の山門前にかかる御社橋。地元の人々からは「多田の赤橋」とも呼ばれ親しまれています②学校ビオトープ推進事業③水質定点調査活動



## ●BYスタンプラリー！協賛グループ紹介

# 猪名川・神崎川水質研究グループ

一人ひとりの心がけで、

流域住民が愛せる川を取り戻したい。

■今回は代表者の中本二郎さんにお話をうかがいました。

「昔は川が遊び場であり、生活の場でもありました。そんな川を取り戻したくて——1998年、シニア自然大学の門を叩いたことから中本さんの環境づくり活動はスタートしました。」

シニア自然大学ではビオトープ科に籍を置き、主に学校ビオトープ推進事業の活動に携わっていましたが、「実際にどんな生き物がいるのか、まずは『水』について知らないことには何も始まらない」ことに気づき、ビオトープ科のメンバーが中心となって、猪名川の上流から下流域までの水質定点調査活動を始めることになりました。

水質調査活動を始めて現在7年目。毎月第二金曜日に、登録している16人のメンバーで簡易調査を実施しています。気温、水温、窒素、リン、COD、電気伝導度、DO、透視度といった水の質その

ものの調査をはじめ、水辺の生き物や植物、昆虫類なども写真撮影し、1年間の活動を「猪名川・神崎川水質調査報告」として、流域の関係機関に配布しています。調査を通して「現在、猪名川の水質は全国でもあまり良い評価を受けていません。要因としては生活排水の流入が考えられますが、それ以外にも戦後、物資が豊かになった結果、猪名川に限らず

要らなくなったものの捨て場所が河川になっているということも考えられます。もともと河川には自然浄化能力があるのですが、その能力以上のゴミが捨てられているのです」と分析されています。

このグループ以外にも様々な環境づくり活動をしている中本さん。最近では近隣の自治体からも講演や指導の依頼が来るなど、活躍の場は広がる一方です。

「どの活動でも目指すものは同じこと。猪名川の地域住民・流域住民が河川を愛して、河川が生活の場になるようにしていきたい。そのために、環境負荷は流域住民一人ひとりのちょっとした心がけで減らせるということを理解してもらわなくてはなりません。現在も地域ごとの取組みはなされていますが、それぞれ『点』であって『線』になっていません。自治会やコミュニティ、行政にも働きかけて活動を『面』として広げていきたいと思っています」と今後の抱負を話してくださいました。



(上) 代表者 中本二郎さん  
(下) クリーンアップ活動



BYスタンプラリーとは、協賛グループの活動に参加してスタンプを集め、事務局に送付していただく、素敵な景品を差し上げるというもの。これまで1,427人の方がご応募くださいました。また協賛グループは、55の市民団体と19の水関連施設で構成されています。(平成18年8月末現在)

実験レポート

財団法人琵琶湖・淀川水質保全機構  
琵琶湖・淀川水質浄化研究所調査研究部

研究員 土谷卓

# Biyoセンターに棲む魚たち

Biyo センターは、平成9年7

月に葉山川河口付近の琵琶湖畔に建設された水質浄化実験施設です。敷地内の実験水路や実験池には、葉山川河口からポンプで取水された河川水が供給され、浄化された河川水が排水口から琵琶湖に注がれています。敷地内の実験水路や実験池には、放流されていないにも関わらず、多様な魚類が生息しています。

このような魚類の生息状況を把握するため、Biyo センターでは、平成10年から毎年4回、多自然型水路や琵琶湖型池などにおいて魚類調査を実施しています(琵琶湖型池とコンクリート水路は平成11年から実施、平成14年は未実施)。この調査では、これまでに28種類の魚類が確認されています。

平成17年の調査では、全部で21種類の魚類が確認され、タイリクバラタナゴ(全ての採集個体数の38%)、ブルーギル(23%)、オイカワ(8%)、カネヒラ(7%)、ス

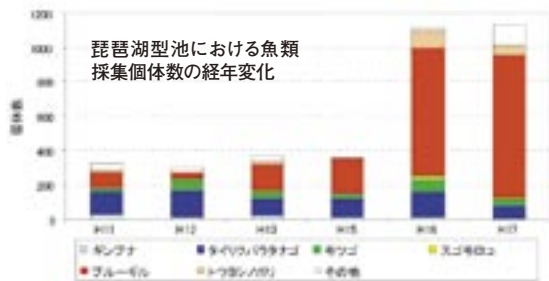
ゴモロコ(5%)の順で多く採集されました。多自然型水路などではタイリクバラタナゴやオイカワが多かったですが、琵琶湖型池では、侵略的外来魚であるブルーギルが多く採集されました。

琵琶湖型池のブルーギルは最近大幅に増加しているため、平成15・16年にブルーギルの進入・繁殖状況を把握するための調査を実施しました。この調査の結果、Biyo センター内のブルーギルは主に6

7月の夜間に仔魚の状態で見え、産卵床を作つて繁殖していることがわかりました。今後は、琵琶湖型池のブルーギルを対象にしたさまざまな駆除・管理手法を検討し、ブルーギルの増殖を抑制していきたいと考えています。また、ここで得られた知見を琵琶湖・淀川水系における水辺環境の再生・創造に活用していくことを目指していきます。



①魚類調査(投網)②魚類進入状況調査  
③ブルーギル産卵床調査④琵琶湖型池で確認されたブルーギルの産卵床の位置⑤進入調査で採集されたブルーギル仔魚



■ Biyo センターにおける魚類分布状況 (H17 調査)

- 多自然型水路  
タイリクバラタナゴ・オイカワ・スゴモロコが多い
- 琵琶湖型実験池  
ブルーギル・カネヒラ・タイリクバラタナゴが多い
- コンクリート水路  
タイリクバラタナゴ・オイカワ・カマツカが多い
- J字水路  
タイリクバラタナゴ・ツチフキ・メダカが多い

# BYQ INFORMATION

お申し込み・お問い合わせ：(財)琵琶湖・淀川水質保全機構 TEL.06-6202-1267 FAX.06-6202-1317 ホームページ <http://www.byq.or.jp/>

## 平成18年度助成対象活動が決まりました

(財)琵琶湖・淀川水質保全機構では、琵琶湖・淀川の水質保全に関わる活動に対し、助成事業を行っています。平成18年度募集しました助成対象事業が下記の事業に決まりました。

### I 琵琶湖・淀川水系の水環境改善事業

(採用1件)

#### ▶比奈知ダム生き生き浮島2006(※作り編)

NPO 法人地域と自然

### II 琵琶湖・淀川の水辺を愛する活動

(採用6件)

#### ▶琵琶湖に浮かぶ沖島の心象絵図作成と展覧会

NPO 法人蒲生野考現倶楽部

#### ▶琵琶湖・淀川流域の淡水魚100種原画展

nature works (ネイチャーワークス)

#### ▶第37回鴨川納涼「琵琶湖・淀川流域ネット活動展示コーナー」

鴨川を美しくする会

#### ▶環境教育ビデオ「水を調べる」の製作

淀川水系の水質を調べる会

#### ▶淀川左岸幹線水路水生生物調査

水辺に親しむ会

#### ▶地域はぐくむ水辺の出会い

日野川水辺の会

身近な川の水を自分で調べてみませんか？

## 2007年 WAQU<sup>2</sup> 調査隊 隊員大募集!!

### WAQU<sup>2</sup> 調査隊って何？

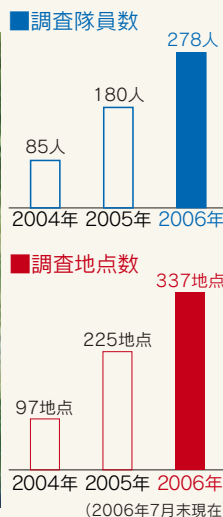
- 身近な川への関心が薄れてきている中、昔のように川と親しむきっかけをつくることで、水環境を考え直す時間づくりを目指して、平成16年(2004年)から活動を始めています。
- 調査隊員になると、身近な川の汚れ(水質)を簡単なキットを使って調べることが出来ます。
- 調査活動は、1年間で4回程度を予定しています。
- 水質調査に参加すると、水質マップを進呈します。

### 応募内容

- 応募資格：琵琶湖・淀川流域に住み、水環境に興味がある方
- 応募期間：随時募集中
- 応募方法：申込用紙はBYQホームページからダウンロードできます。ホームページをご覧いただけない方は、お問い合わせください。

水質マップ(COD)

実施日：2006年5月



～クリーンアップキャンペーンに登録してあなたの川・湖を綺麗にしよう～

## めざせ! 1万人のクリーンアップ 登録団体募集



平成15年3月に滋賀・京都・大阪を舞台に第3回世界水フォーラムが開催されました。クリーンアップキャンペーンは、水フォーラムを記念して、平成14年から実施しているイベントです。流域で行われている河川や湖沼・ダムでのクリーンアップ活動を、琵琶湖・淀川流域の全体的な運動とし、流域社会が一体となって水源を守り、水辺を美しく保全する流域連携運動に発展させることを目的として実施しています。

- 募集期間：平成19年2月28日(水)まで。本キャンペーンは今回で終了します。
- 応募資格：琵琶湖・淀川流域の河川・湖沼(ダム湖も含みます)で清掃活動を行っている方
- 登録費用：無料
- その他：1. 清掃完了時には、清掃場所の報告、収集ごみの分別計量をお願いします。  
2. 登録いただいた団体へは、ゴミ袋、軍手を提供します。  
3. 希望される団体には、イベント保険に加入します。
- 登録方法：登録用紙はBYQのホームページからダウンロードできます。ホームページをご覧いただけない方は、お問い合わせください。

17号の「環境へのアプローチ」でご紹介した大阪新阪急ホテルのご好意で、環境保全の取り組みにより節約できた費用を当機構にご寄付いただいております。水質浄化研究事業などに活用しています。





めざせ! <sup>みず</sup>水アーティスト

# マープリングに<sup>ちようせん</sup>挑戦!

マープリングとは伝統的な画法で「墨流し」とも呼ばれます。水の表面張力を利用し、水面に浮かべた絵の具を紙に写し取る技法で、描かれる模様は繊細かつ大胆で神秘的なものです。コースター、ラッピングペーパーなど色々なものを作ってみよう!

## 用意するもの

染める紙、直径 15 センチぐらいの皿など浅い容器、古新聞、マープリング絵の具（市販の物）、絵の具を入れる容器（パレットなどが便利）、ふで



よく洗った容器に、深さ 3cm 程度の水を張ります



インクを筆に含ませて水面に触れます



色を変えて同じように色を落とします



色がついているところに色を落とすと年輪状になります



水面にできた模様を側面から波立たないように静かに息を吹きかけると、色が混ざり合って模様ができてきます



模様をつける紙を、水面との間に空気が入らないように注意しながら静かに下ろします



紙全体に水が染み渡れば、ゆっくり引き上げます



吸水性のよい新聞紙などの上に置き、水分を取れば完成!



完成後は、厚紙などに貼り付けてコースターとして使うこともできます

## 今回のふしぎワード

### 表面張力(ひょうめんちようりょく)

葉っぱについた朝露が丸くなっているように、液体が表面積を縮めようと、球になる力のことです。マープリングで絵の具や墨などが水に浮くのも表面張力の原理によるものです。

# 滋賀の新たな森林づくり

## 琵琶湖 森林づくりの推進

滋賀県は琵琶湖と人々の暮らしを支えるかけがえのない森林を健全な姿で未来に引き継ぐため、琵琶湖森林づくり基本計画に基づき、「環境に配慮した森林づくりの推進」「県民の協働による森林づくりの推進」「森林資源の循環利用の促進」「次代の森林を支える人づくりの推進」の4つの基本施策のもと、県民全体で森林の持つ多面的機能を積極的に発揮させる森林づくりを進めています。

## 「琵琶湖森林づくり 県民税」の導入

森林の公益的機能を高度に発揮する森林づくりには、森林の恩恵を享受している全ての県民が共同して負担していくべきとの考え方から、琵琶湖森林づくり県民税条例を平成18年4月1日より施行しました。

この税は、現行の県民税均等割の額に一定額を上乗せする県民税均等割超過課税方式によるもので、個人から年間800円、法人からは資本等の金額に応じて2200円

8000円をご負担いただき、単年度の標準的な事業費は、約6億円と試算しています。この新税の用途は、これまでの木材生産を中心とする森林づくりとは異なる新たな視点に立った施策に充当していくこととしています。

## 琵琶湖森林づくり 事業の展開

平成18年度から、琵琶湖森林づくり県民税を活用し、新たな視点での森林づくり事業に取り組みます。

それらは大きく分けて2つの柱からなります。一つは針葉樹と広葉樹が混じり合った環境林への転換や里山林の整備など、「環境を重視した森林づくり」です。もう一つは、森林の恩恵を受ける全ての人々が森林づくりに参加する「県民協働による森林づくり」です。

これを機会に、ぜひ皆さんも積極的に森林づくりに参加してください。



県民協働による森林づくり



環境林への転換

針葉樹と広葉樹の混じり合った環境林へ転換します。多様な動植物が暮らす森林をつくることで、質の高い自然環境が保全されます。

## つくってみよう!

今回の生き物 ▶ とんぼ

※株式会社ブティック社刊  
プチブティックシリーズ no.431『こんちゅうをおる』より著作権者の了解を得て制作しました。



1 折り紙を三角に折り、ついた折り目に合わせてまん中に折り合わせます



2 裏返して半分に折ります



3 ②を裏返し、角を引き出しながら折ります(左右とも)



4 まん中に折り合わせ、折り目をつけます



5 写真のように開きます(左右とも)



6 反対側も同じように開きます



7 裏返して、重なった上の紙だけに切り込みを入れます



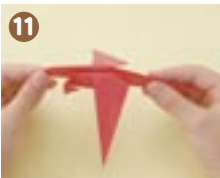
8 切り込みから先を折り広げます(左右とも)



9 縦半分に折ります



10 羽を折り下げます(左右とも)



11 先を三角に折ります



12 反対側も折って完成

## (財)琵琶湖・淀川水質保全機構賛助会員(50音順)

計20社(平成18年9月1日現在)

(株)アクアテルス琵琶湖事業部、いであ(株)、(株)オオバ大阪支店、(株)環境総合テクノス、近畿技術コンサルタンツ(株)、(株)建設環境研究所、(株)建設技術研究所大阪本社、国際航業(株)関西支社、滋賀県下水道保全事業協同組合、(株)修成建設コンサルタント、(株)新洲、帝人エコ・サイエンス(株)、(株)東京建設コンサルタント関西支店、(株)西日本技術コンサルタント、(株)日建設計シビル、(株)日水コン、日本工営(株)大阪支店、(株)ニュージェック、パシフィックコンサルタンツ(株)大阪本社、八千代エンジニアリング(株)大阪支店



### 財団法人琵琶湖・淀川水質保全機構

Lake Biwa-Yodo River Water Quality Preservation Organization

〒541-0041 大阪市中央区北浜1丁目1番30号 横井北浜ビル3階

TEL.06-6202-1267 FAX.06-6202-1317

ホームページアドレス <http://www.byq.or.jp/>

(財)琵琶湖・淀川水質保全機構は、淀川水系における河川・湖沼の水質浄化技術及びこれに関連する技術に関する研究開発、水質浄化事業の支援等を行うことにより、淀川水系の水質保全に寄与し、もってうるおいのある地域社会の形成と関係住民の生活環境の向上に資することを目的としています。

「BY BLUE」とは、琵琶湖(BIWA KO)・淀川(YODOGAWA)を青く(BLUE)美しく、という願いから名付けました。

